

資料3 大規模校・小規模校のメリット及びデメリット

1 本県における検討

	大規模校	小規模校
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 大きな集団であることから、生徒相互の切磋琢磨が行われ、人間性の陶冶が期待できる。 教職員の数が多く、そのため各々の専門性、特性を生かして適材を適所に配置することや、生徒の能力、進路希望等に応じたいろいろなコースの設定、教科選択の幅の拡大等、教育課程の弾力的運用を図ることができる。 <p>（「佐賀地区における普通科大規模校の問題点とその対策について(報告)」 (昭和59年7月17日)より抜粋)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数が少ないため、生徒一人ひとりに目が届き、進路指導等について、きめ細かに指導することが可能になる。 すべての生徒を行事へ関わらせることができるので、終わった時の満足度を高めることができる。 <p>（「平成22年度3学級規模の専門高校等の検証報告」(平成23年5月報告)より抜粋)</p>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 生徒相互の意思の疎通が十分でなく、協調、連帯の意識が育ちにくい傾向がある。 教職員が多いため、教職員の共通理解、意思の統一がしにくい面がある。 施設、設備の面で、特に体育館、運動場、特別教室の利用が過密である。 <p>（「佐賀地区における普通科大規模校の問題点とその対策について」 (昭和59年7月報告)より抜粋)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間の多様な個性のふれあいや、生徒同士の切磋琢磨の機会が減少する。 活気に満ちた学校行事の実施や、多様な部活動の展開が困難となる。 柔軟な教育課程の編成や教員の活発な相互研修による教育活動の充実向上が図りにくくなる。 <p>（「佐賀県立高等学校再編整備第一次実施計画」 (平成14年10月策定)より抜粋)</p>

2 他県における検討

	大規模校	小規模校
メリット	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の能力・適性、興味・関心、進路等に対応した多様で弾力的な教育課程の編成が可能になる。 様々な専門性を持つ教職員等を確保できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数が少ないため、教職員が生徒一人ひとりの顔と名前が覚えられ、きめ細かな指導を行える。 生徒一人ひとりに様々な役割が割り振られるので、生徒が活躍する場が多い。
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 校内における人間関係が希薄になる。 全体に一斉に動く学校行事の運営に支障をきたすことがある。 少人数を指導する施設・設備が不十分になりがち。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの個性的な生徒と出会い、他者とのコミュニケーション能力を高め、適度な切磋琢磨の中で自我を作り上げていく機会が限られる。 教員数が少ないことから、進学や就職等の進路希望に適切に対応するための、教科・科目の専門性の確保が難しい。 部活動の種類が少ないことがあり、部員が少なく生徒が興味・関心に応じた部活動の選択が難しい。 学校行事を活性化するために、しばしば地域や保護者の協力が必要となる。

<引用>

- ・ 熊本県「県立高等学校再編整備基本計画」(H19.8月)
- ・ 大分県「高校改革推進計画 後期再編整備計画」(H20.8月)
- ・ 長崎県「第二期長崎県立高等学校改革基本方針」(H21.3月)
- ・ 北海道大学「小規模高校に関する基礎的研究：北海道での調査から」
(公教育システム研究 (H19.2月))